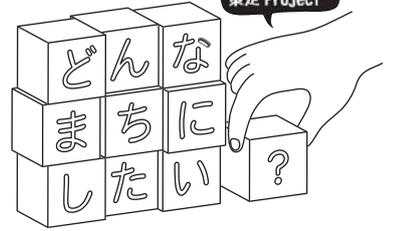


SouKeiNEWS

芦屋市総合計画
策定 Project



No.01

芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第1号 2018年11月
芦屋市政策推進課発行

市民ワークショップ 始まりました。



2018.10.21(日)
第1回市民ワークショップ

テーマ：

**芦屋って
どんなまち?**

芦屋市では、新たに2021年度からのまちづくりに向け「芦屋市第5次総合計画」の策定を始めました。

この計画づくりを芦屋市民の皆さんと一緒に進めるため、市民と職員がテーブルを囲み、

「芦屋市総合計画策定 Project 市民ワークショップ」を5回に渡り開催していきます。

10/21にワークショップの第1回目が行われ、

「芦屋ってどんなまち?」というテーマのもと活発に意見が交換されました。

「総計」についてインプット

総合計画って？

10年間のまちづくりの指針となる、芦屋市の最上位の計画です。
現在の「第4次芦屋市総合計画」は2020年度が最終年度となり、2021年度から新たな計画期間が始まります。

山中市長からの
メッセージ

「安全安心」と「教育」が充実している都市は衰退しないと私は考えています。皆さん、どんどん意見を出してください！

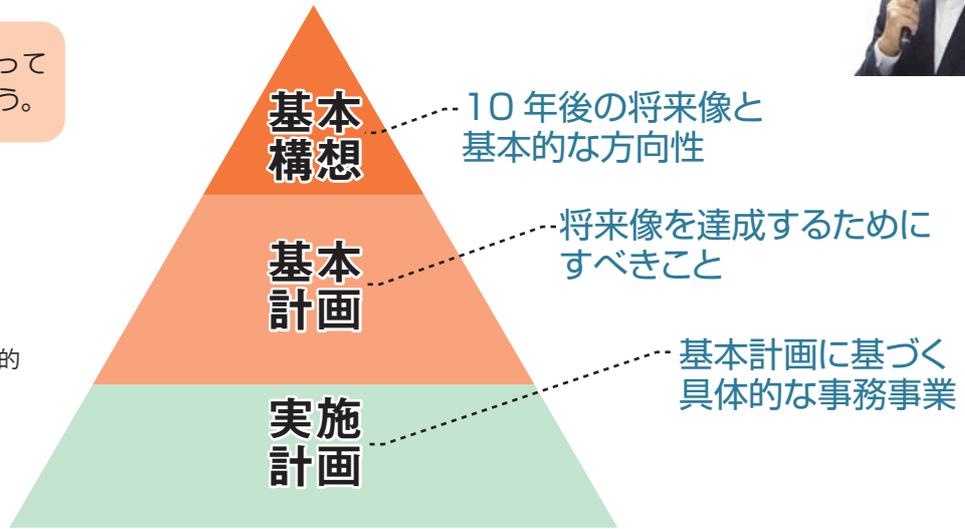


みんなで作って
いきましょう。

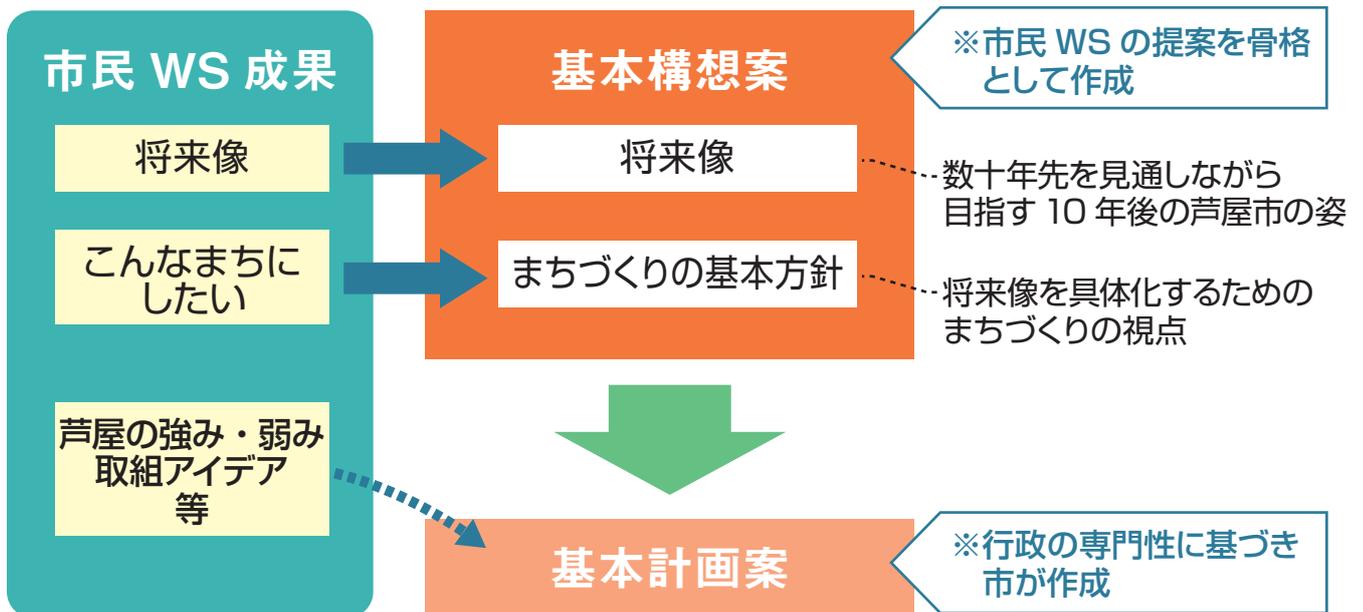


総合計画と今回のWSの目的
について説明する、
芦屋市政策推進課担当者

総合計画の3層構造



市民ワークショップでは、「基本構想案」をつくっていきます。



今回のワークショップの意見を骨格として、「基本構想案」を作成していきます。今後「基本計画案」とともに、行政内部の推進本部や外部有識者等の意見を取り入れながら策定に向けて進めていきます。

市民36人職員16人、総勢52人によるワークショップがスタート

まずは雰囲気づくりから

参加者は市民・職員混合でAからHまで8つのチームに分かれました。ワークショップでは、意見がどんどん出てくる雰囲気づくりが重要。自分の意見が否定される場では、良い意見は出ません。持ち物ゲームで「安心して意見を言い合えるコツ」を掴んでもらい、その後のディスカッションが進むほど、各テーブルで参加者の距離がどんどん近くなっていくのが分かりました。



宇宙旅行の持ち物を40個考えるゲーム

いよいよ本題、芦屋の現状を考えてみる

この日の目標は芦屋の現状について思っていることを全部出しきってしまうこと。芦屋の「いいところ、自慢できるところ」反対に「わるいところ、心配なところ」をまずは各自でフセンに書いていきます。ファシリテーターを務める浅見さんもびっくりするほど、たくさんのフセンを使う参加者もちらほら。

こんなにたくさん
意見のでるワークショップ
初めてかもしれない!



どんなまちか見えてきた?!

それぞれで書き出したフセンをチームで共有して、意見交換しながら分野ごとにまとめていきます。行き詰ったら他のテーブルを視察してもOK! どのテーブルも模造紙の上に「芦屋のまちの姿」が現れてきました。

各チームの結果発表では、共通するキーワード、独自の視点、同じことでもプラスと捉えていたりマイナスと捉えていたり、短時間の中で充実した意見交換の成果を確認しました。

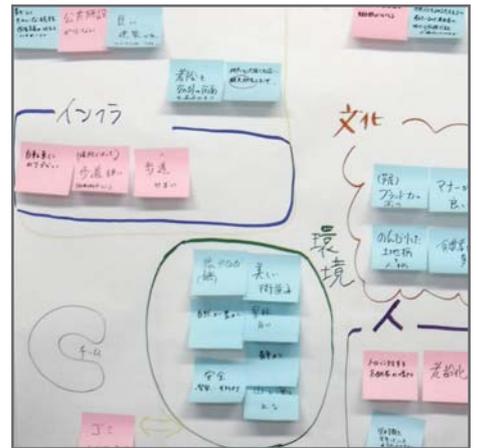
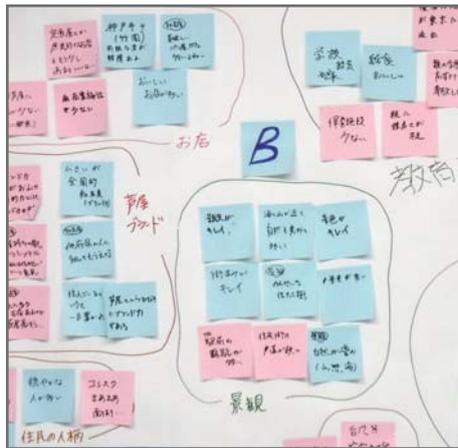
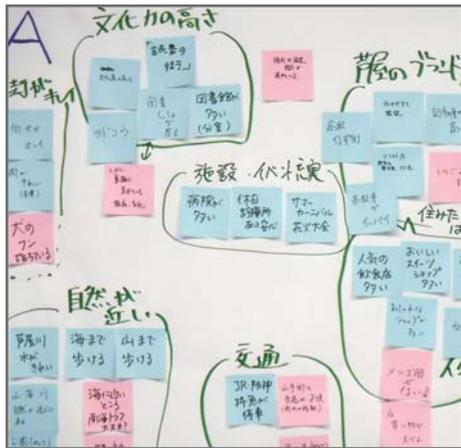


ちょっと時間超過でも発表を続けます



熱が入り、どんどん立ちあがる参加者

各チームの意見を整理して次回に臨みます



第1回目では、「芦屋のブランド力」「景観・環境」「交通」「文化」「安全・安心」「商業」に関する意見が多く出ました。次回以降でどんな芦屋の将来像が描かれていくのか楽しみです。



次回予告
第2回 市民ワークショップは 11/11(日)です

今日は、「みんな芦屋をよくしたいと思っている」という合意形成ができました。

ファシリテーターを務める「ひと・まち・住まい研究所」の浅見雅之さん

